



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

外国人の農地取得を危惧

食料供給へ影響の恐れ

農業の発展に力を注いでいる伊藤昌弘県議(佐倉市・印旛郡酒々井町選出、5期)は外国人による農地取得を懸念し、県議会の農林水産常任委員会で現状と対策を県に聞きました。国内では2024年、外国人による農地取得が過去最多になるなどの現状に、伊藤県議は食料供給や安全保障上のリスクがあると見て、規制を県に強く求めました。このほか、酒々井インターチェンジ付近への産業用地整備などの質疑と答弁を紹介します。

農林水産常任委員会



農林水産常任委員会での伊藤昌弘委員

伊藤委員 農林水産省は外国人やその関係法人が2024年に取得した日本国内の農地面積が175・3ヘクタールに上り、比較可能な2022年以降で過去最多だったと発表した。このことを受けて、我が千葉県における外国人・外国法人の農地取得状況が大変気になる。

が追加され、農地取得者の国籍が把握できるようになったのは令和5年9月からとなっております。国籍が明らかになった令和5年9月以降の外国人等の農地取得状況でございますが、令和5年9月から12月においては6件で、合計2・1ヘクタール、令和6年1月から12月におきましては、13件で合計3・6ヘクタールとなっております。

安全保障上のリスクも

伊藤委員 厳しくなったというふうな表現だと思いが、この取得の問題点について県への考えはどうなのか、また国への要望や、また県において何かしら制限を設ける考えがあるのか。

農地担当課長 農地の取得につきましては、農地法に基づき、全国で一律の要件が課されており、国としては、農地法において、実質的に外国人の投機的な取得を制限する手法を取ることが現実的であるとの考えの下に最近の規則改正を行っているものと聞いております。

現時点におきましては、県内の市町村農業委員会からは外国人農地取得が問題となっているという声は聞いておりませんが、県としては、

短期間での転居農地取得認めず

伊藤委員 農地は日本人でも一般的には購入できない土地。このような農地を外国人が取得するための要件はどうなっているのか。

農地担当課長 農地法では、外国人等による農地の取得は制限されておりませんが、外国人が農地を取得するためには、日本人の場合と同様に、営農計画を持ち、必要な労働力や農業用機械を用意できること、農作業に原則として年間150日以上従事すること、周辺の農地利用に支障がないこと等の要件を満たす必要があります。

伊藤委員 食料安全保障の観点から考えると、日本と緊張関係のある国の関係者が農地を取得し、その生産を停止した場合、国内食料供給に重大な影響を及ぼす可能性がある。また、購入目的が違えば、経年経過後に計画的耕作放棄地のリスクが考えられる。こういったことは、食料自給率の低い我が国にとっては大きな問題だと思ふ。

また、安全保障上重要な

伊藤まさひろ・PROFILE

略歴

- ◆昭和30年 佐倉市に生まれる
- ◆昭和53年 日本大学法学部卒業
- ◆平成7年 佐倉市議会議員当選
- ◆平成11年 佐倉市議会議員再選
- ◆平成19年 千葉県議会議員当選
- ◆平成23年 千葉県議会議員再選
- ◆平成27年 千葉県議会議員3選
- ◆平成31年 千葉県議会議員4選
- ◆令和5年 千葉県議会議員5選

現職

- ◆印旛沼水質保全協議会 顧問
- ◆農政審議会 委員
- ◆佐倉リトルシニア野球協会 会長

施設周辺の農地が、外国人や外国法人によって取得されるリスクも考えられる。いづれにしても、このままではいとはとても思えない。国への要望、そして県として何らかの制限を構築することを強く要望する。

●県政や佐倉市・酒々井町のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談ください!!

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616



県執行部に施策を聞く伊藤昌弘県議

酒々井IC周辺 産業用地を整備

県は積極的な支援を

12月県議会一般質問

伊藤議員

酒々井町にある、東関東自動車道「酒々井インターチェンジ」周辺は、国道51号線や国道296号線などの広域交通結節点であり、また、2030年には成田空港の第2の開港も予定されている中、物流や製造業をはじめとする多様な産業の拠点として、

ポテンシャルが高いエリアとして、大きな期待が寄せられている。一方で、町内の産業団地は、空き区間が無く、新たな雇用の創出、地域経済の活性化につなげる企業を誘致するためには、受け皿となる新たな産業用地整備を行うことが重要であると考え、特に交通便利性の高い高速道路インターチェンジ周辺において、産業用地整備の検討・整備を進めていくことは必要であり、そのために町に対して県は早い段階から積極的に支援すべきと考え、

そこだろうか、酒々井インターチェンジ周辺における産業用地の整備について、県は町に對しどのよう

に支援しているのか。
商工労働部長 酒々井インターチェンジ周辺は、交通の利便性に優れ、成田空港や首都圏へのアクセスも良い

ことから、製造業や研究施設の産業用地として企業ニーズのある地域であると認識しております。このため、県では、新たな産業用地整備に向け、町による構想段階から意見交換を重ねてきたところで、産業用地の候補地検討にあたっては、事業可能性調査への補助などの市町村支援を行っており、本年度から

県道佐倉印西線田町バイパス

混雑緩和へ幅進む

伊藤議員

主要道佐倉印西線は、国道51号との交差点から、佐倉市の中心部や印西市の千葉ニュータウンを経て、国道356号までを結ぶ県北西部における重要な道路。しかしながら、現道の一部区間では車道幅員が狭い上に歩道も未整備であり、車のすれ違いや歩行者の安全に支障をきたしているとともに、京成電鉄と交差する踏切部

点において、国道との交差点を先頭に、渋滞が発生している。
そこだろうか、県道佐倉印西線田町バイパスの進捗状況はどうか。
県土整備部長 田町バイパスは、線形不良の解消と交

は、調査に関わる補助限度額を300万円から500万円に引き上げました。酒々井インターチェンジ周辺の産業用地整備に対しても、町の検討の進捗状況に応じ、このような制度の活用を促すなど、引き続き必要な支援を実施してまいります。

要望

伊藤議員 酒々井インターチェンジ周辺は、成田空港へのアクセスが良く、空港の「第2の開港」という機会を活かした産業拠点の形成が進む中、企業ニーズも十分に見込ま

れる。
このような中、進出の受け皿となる産業用地の確保は、新たな雇用の創出や地域の活性化を実現する上で重要と考える。
本日、お越しいただけている金塚新酒々井町長は、企業誘致のプロジェクトチームを創設し、専門職を置くことも検討すると言っている。
つまり、相当な覚悟を持って企業誘致を進めたいというところだと思つ。
県からの積極的な支援を強く要望する。

国道296号墨入口交差点

右折レーン設置検討

伊藤議員

東関東自動車道酒々井インターチェンジや、酒々井プレミアムアウトレットのアクセスとなる国道296号墨入口交差点改良の取組状況はどうか。
県土整備部長 当該交差点については、南側で接続する県道富里酒々井線が大型商業施設や酒々井インターチェンジへ通じ、北側においても、住宅地や丁

を進めています。
現在、鉄道と交差する区間について、鉄道事業者から示された将来の軌道位置等の条件に基づき、鉄道を跨ぐ橋梁を含む道路の設計や、移設が必要となる佐倉川の設計を実施しているところとです。
このため、県道富里酒々井線の右折レーン設置を含めた交差点改良の検討を進めており、今年度は設計業務に必要となる地形測量を実施しています。
伊藤議員 できる限り早く、事業を進めるよう要望する。

県道宗吾酒々井線の酒々井町酒々井地先歩道整備に取り組む

伊藤議員

県道宗吾酒々井線酒々井町酒々井地先における歩道整備の進捗状況はどうか。
県土整備部長 酒々井町酒々井地先については、小学校の通学路となつていますが、歩道が未整備で路肩も狭いことから、歩行者の安全

を確保するため、延長80メートルの区間で両側歩道の整備を行っています。これまでに、約4割の用地を取得し、延べ300メートルの歩道整備が完了しており、引き続き、地権者の御理解を得ながら交渉を重ねるなど、早期の用地取得に向け取り組んでいるところです。今後も、まとまった用地が確保できた箇所から、順次、工事を進めます。

稼げる農業の実現を 経営効率化を実践

を生かすつつ、農業者の経営規模の拡大や生産の効率化を図り、所得の向上と経営の安定を図っていくことが重要です。
このため県では、収益性が高く、刈り取り時期が分散できる品種の導入・普及を進めるとともに、規模拡大やコスト低減を図る農業者に対し、設備投資の負担軽減のため、自動操舵システムや農業用ドローンなどスマート農業機械等の導入費用の助成などに取り組んでいるところとです。
今後は、これらの取り組みに加え、さらなる販路の拡大や、農作業を受託するなどの農業支援サービスの活用促進により、経営の効率化を図り、「稼げる農業」が実現できるよう、支援してまいります。

要望

伊藤議員 稲作農家に對しても「稼げる農業」を実現し、将来にわたつて米を生産できるよう、県には継続的かつ積極的な支援をお願いする。

伊藤議員 稲作農家に對しても「稼げる農業」が実現できるように支援を行っていくのか。
農林水産部長 「稼げる農業」を実現するためには、早場米産地としての優位性